科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	森里海連環学実習III ：暖地性積雪地域における冬の自然環境 Field Study on Connectivity of Hills, Humans and Oceans III :Natural Environment in Winter Season of Warmtemperate Snowfall Region			担当者所属職名・氏名	フィールド科学教育研究センター 講師　中島　皇		
群	統合科学科目群	分野(分類)	森里海連環学		使用言語	日本語	
旧群	B群	単位数	1単位	時間数	30時間	授業形態	実習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・後期集中	曜時限	集中	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

芦生研究林の位置する京都府北東部は暖地性の積雪地域である。この地域の冬の自然環境を体感する。雪氷調査法の基礎を習得することによって、雪や氷を定性・定量的に評価する方法を学ぶ。同時に冬のフィールドにおいて生物(人間も含む)の活動がどのように制限されるか、またその制限に対する生物の対応について理解を深め、フィールド調査の基礎となる安全で有効な活動方法を習得する。

[到達目標]

雪氷調査法の基礎を習得すること。
雪や氷を定性・定量的に評価する方法を学ぶ。
冬のフィールドにおいて生物(人間も含む)の活動がどのように制限されるか、またその制限に対する生物の対応について理解を深める。
冬のフィールド調査の基礎となる安全で有効な活動方法を習得する。

[授業計画と内容]

２月前半に、芦生研究林において合宿方式で行う。

予定(天候・雪の状況等によって変更の可能性あり)
第１日：芦生研究林への移動とオリエンテーション
芦生研究林に集合。14:00：オリエンテーション。カンジキを装着して足慣らし。宿舎周辺の雪観察。夜、発表会。
第２日：芦生研究林における冬の自然環境
終日：内杉谷又は由良川本流においてフィールドでの自然観察。
第３日：雪と氷の調査法入門
終日：積雪調査法(講義)・積雪調査実習
第４日：調査データの解析・レポート作成・発表会・解散
午前：レポート作成・発表会・後片付け・掃除。午後：解散。

森里海連環学実習III ：暖地性積雪地域における冬の自然環境(2)へ続く↓↓↓

森里海連環学実習Ⅲ ：暖地性積雪地域における冬の自然環境(2)

[履修要件]

募集定員は15名。詳細は12月初旬に発表の募集要項を参照。１月下旬に説明会を開催するので、必ず参加すること。４回生の履修については、卒業に必要な単位としては成績判定が各学部の締め切りに間に合わない可能性があるので要注意。高校での生物履修の有無は問わないが、授業中必要になる知識については、自学自習を求める。

[成績評価の方法・観点]

１．討議への参加状況　４０点
２．調査方法の習得状況　３０点
３．レポート及び感想文　３０点

[教科書]

教科書は使用しないが、芦生研究林や積雪調査法に関連する資料を配付する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

http://www.fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/

[授業外学修（予習・復習）等]

事前にメールで課題を提示し、初回のオリエンテーションで意見を交換する。次の時間までに、集中講義に向けて各自の計画、或いは友達との共同生活の準備を行うための話し合いを行う。集中講義の最後に全体を通してのレポートを課す。

[その他（オフィスアワー等）]

日程調整等の連絡は基本的にメールで行います。メールチェックを常に行うメールアドレスを登録すること。特別な予備知識は必要としないが、冬期の積雪地域での実習になるので防寒具の準備は必須である(詳細は説明会にて)。また、野外での講義・実習がメインになるので各自学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に必ず加入のこと。食費(実費(自炊))・宿泊費(￥500)・交通費(バス代￥2,500、電車代￥570)は各自負担(2016年度実績)。
関連する科目：森林学

[主要授業科目（学部・学科名）]